

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
1	野 原 嘉 孝 (公 明 党)	1 御茶屋御殿 の復元につい て	御茶屋御殿の復元・整備に関しては、これまでも復元期成会の皆さんをはじめ多くの方々が悲願達成へ向けて尽力してこられた。戦後 70 年の節目を迎える今年、是非とも事業推進へ向けた具体的な一歩を踏み出すことが必要と考えるが、以下当局の見解を伺う (1) 首里城の復元・整備事業が参考になると思うが、首里城はどのような事業形態で整備したのか (2) 御茶屋御殿跡地を文化財登録する意義について (3) 教会の移転先探しを国・県と協力して進めることについて
	質問方式 一問一答方式 (質問席のみ)	2 文化行政に ついて	古の琉球王朝時代から受け継がれてきた手(ていー)を起源とする空手は沖縄の誇りである。空手道会館の建設計画が進む今こそ、歴史を整理して学術的な体系づけを図るとともに、伝統の継承に尽力してこられた先人の顕彰を再認識する必要があると考えるが、その現状について以下伺う (1) 那覇市内には先人を称える顕彰碑等がどれだけあるか (2) 建立の形態、土地の提供、管理運営について

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		3 ごみ減量と リサイクルに ついて	循環型社会の構築を目指して本市も様々な取り組みをしてきたが、ごみの減量とリサイクルについて以下伺う (1) ごみの年間総量の推移 (2) リサイクルの状況について (3) 生ごみの処理及びリサイクルの状況と課題について 【答弁を求める者】 市長、副市長、関係部長

一般質問（１日目） 平成 27 年 2 月 24 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
2	奥 間 亮 (自 民 党) 質問方式 総括質問方式 (演壇・質問席)	1 高良小学校給食調理場の改築工事について 2 生活道路の安全対策について 3 特別養護老人ホームの整備について 4 福祉施設について	学校給食を通して、児童生徒の健康的な心身の発育を推進する意義が年々高まっている これを進める意味でも、老朽化に対応するためにも、高良小学校給食調理場の改築工事について、早急かつ確実な整備を要請する。見解を伺う 昨年 12 月中、市道高良 10 号上の、宮城自治会館先の交差点において、人身事故が 2 件発生し、いずれの事故もこどもが被害者であった。以前から危険な交差点と指摘されており、宮城地域の皆様から事故防止対策について強く要請を受けている 当局は道路管理者として取り得る事故防止策並びに安全対策を早急に講ずるべきである。同件について以下伺う (1) 事故発生後、現在までにどのような対策を講じたのか伺う (2) 現在市道高良 10 号と市道高良 12 号との交差点に設置されている一灯式点滅信号は、通常の三灯式の信号機に交換するべきである。見解を伺う 本市において特別養護老人ホームは、全て那覇の北側に集中しており、現在南側には 1 カ所もない状況である したがって、那覇市の南側、特に小禄地域に特養が開設されるよう社会福祉法人等と連携し、本市も取り組むべきである 現在策定中の第 6 次なは高齢者プランにおいて、特別養護老人ホームのあり方はどのように位置づけられているのか、今後の取り組みを含めて伺う 高齢者の皆様とこどもたちの異世代交流を促進させる、いわゆる「幼老複合施設」や「共生型福祉施設」と呼ばれるような、介護サービス事業所と保育所を同じ建物で運営する施設を、本市でも多く創設されるよう取り組むべきである。見解を伺う

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		5 待機児童解消について	小祿地域は、これから新しく建設されるマンションや住宅も多く、こどもたちも多い 小祿地域の認可保育所をさらに増やし、待機児童の解消に取り組むべきである 今後の待機児童解消計画において、小祿地域の定員はどの程度増える見込みがあるのか伺う
		6 保育行政について	認可保育所に入れたとしても、その後の問題として、兄弟が別々の認可保育所になってしまっは、子育ての負担は結局大きくなってしまふ。希望する保護者に対しては、兄弟が同じ保育所に入れるよう現在の仕組みをさらに整備すべきである。見解を伺う
		7 消費喚起ならびに産業振興について	先般国会で成立をした 2014 年度補正予算において創設された「地域住民生活等緊急支援のための交付金」について以下伺う (1) 様々な事業に使える可能性があるが、本市においては、プレミアム付商品券を発行する事業を早急かつ確実に実施するよう要請する。見解を伺う (2) 地方創生先行型の施策については、本市の中小企業の支援や人材育成、雇用促進、産業振興に効果的な事業を実施すべきである。見解を伺う
			【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長

一般質問（１日目） 平成 27 年 2 月 24 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
3	金 城 眞 徳 (新 風 会) 質問方式 総括質問方式 (演壇・質問席)	1 観光行政について	県内における観光客も昨年は、700 万人を超え順調に毎年増えている。私達的那覇市でも観光条例への取り組みがあり、1,000 万人達成に向けて県民が観光立県としての意識を高めていく事は大変大事な事だと思う。海洋県沖縄は他府県と違う亜熱帯の島々に食文化の違いや地域の伝統文化、そして青い海と自然がある。又、太平洋戦争の戦跡地や慰霊碑等に県外の皆さんは感動と文化の違いや歴史を知る。いにしへの王朝時代、万国津梁の心で小さな島々から中国大陸や東南アジアをまたにかけての貿易や人的交流から異文化を取り入れ繁栄してきた。そのDNAを引き継ぐ私達は、改めて先人に感謝と敬意を表するものである (1) 年間 700 万人余の観光入域者の内訳は、国内観光客や外国人観光客、修学旅行生やクルーズ船客など、おおよそどのようになっているのか伺う (2) 今後外国からの観光客の急増が見込まれるが、受け入れる側としての課題は何か、又、今後の取り組みを伺う (3) クルーズ船の寄港も同様に増加傾向にあるが、バースの整備についてはどう取り組むのか、又、那覇港を起点とするクルーズ需要も今後見込まれると思うが、それについてどう取り組むのか伺う (4) 年間を通して市内宿泊の観光客数と 1 人あたりの消費額はいくらか伺う

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		2 教育行政について 3 都市モノレールの先行開業について	沖縄県の不登校傾向の児童生徒は全国平均に比べて高く、その中でも遊び非行傾向の生徒が多く、その割合は、全国平均の約4倍と非常に高いと聞いた 本市では、不登校児童生徒はどのようになっているのか、又、支援体制はどのようになっているのか伺う 全線開業を待たずに、石嶺駅までの先行開業を、市民は希望している。当局の取組みを伺う
			【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長

一般質問（１日目） 平成 27 年 2 月 24 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
4	大 浜 安 史 (公 明 党)	1 環境行政について	『地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減及び環境保護について意識啓発を図るとともに、住宅用省エネ設備の設置に対する費用を一部助成する事業を実施します』とある。住宅用省エネ設備の設置の一部助成事業について伺う
	質問方式 総括質問方式 (質問席のみ)	2 消防行政について	(1) 議案第 24 号那覇市消防手数料条例の一部を改正する条例制定について伺う ① 今回の条例制定に年間手数料収入は、どの程度試算を見積もっているのか ② 徴収された予算は、消防の予算として活用できるのか伺う (2) 次に交通事故や災害による人命救助として、多くの市民が助けられている可動率の高い救急出場の過去 3 年間の件数と課題について伺う
		3 教育行政について	現在小中学校では、電子黒板やタブレット端末を活用した授業が一部で行われている。ＩＣＴ環境整備について伺う 学力向上のサポート、環境整備は重要な事と思う。ＩＣＴ環境整備の今後の取り組みについて、12 月議会での答弁は、「電子黒板・タブレット端末等の配置計画については、平成 27 年度までを成果の検証期間としておりますので、今後は電子黒板導入学年・タブレット導入校の成果を把握しながら導入計画について検討してまいりたいと考えております。」との事であったが、3 年間のローリング予算化されたものを見ると、平成 27 年・平成 28 年・平成 29 年度のＩＣＴ環境整備、電子黒板やタブレット端末の予算がついてないが、どのように考えているのか伺う。次に、「教育の情報化推進計画」については、12 月議会の答弁では「電子黒板・タブレット端末等の成果も踏まえ、次年度公表に向けて策定する予定でございます。」との事ではあったが、今回の実計された予算を見てもどこにもＩＣＴ環境整備の予算化されてないものであった。小中学校でのさらなる取り組みを強化すべきと考えるが伺う

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		4 信号機の設置について	中核市となり、今年で3年目を迎える訳である。これからの教育研究所の位置づけや目的について伺う 福祉センター線が開通した地域住民の皆さまは大変に喜んでいる。また、念願であった市民の足となるバス路線も運行し利用するお年寄りや住民の皆様からも喜びの声が届いている。開通に伴い交通量も多く、直線コースで見通しがよいため、スピードを出す事も多く、交通事故も多発している。地域住民より沖縄県立中央児童相談所前の変形十字路に押しボタン式の信号機を設置して欲しいとの声がある。石嶺小学校へ通う通学路でもある。地域は沖縄県立中央児童相談所や沖縄県福祉センター等があり、福祉村と言われ、お年寄りも多く利用している。お年寄りや子供達が安心・安全に利用できるよう、押しボタン式の信号機の設置をして欲しいとの強い声がある。早急に設置できるのか伺う
			【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長

一般質問（１日目） 平成 27 年 2 月 24 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
5	上 原 快 佐 (社 大 党)	1 こども・子育て支援新制度について	(1) 新制度移行に伴う本市の取り組みについて伺う (2) 新制度移行に伴う市民への周知状況について伺う
	質問方式 一問一答方式 (演壇・質問席)	2 那覇空港滑走路増設事業について	(1) 環境保全措置の状況について伺う (2) 供用開始後の運用について伺う
		3 はり・きゅう・あん摩・マッサージ指圧施術利用券について	(1) 施術利用券の利用状況について伺う (2) 施術利用券の今後の方向性について伺う
			【答弁を求める者】 市長、副市長、関係部長

一般質問（１日目） 平成 27 年 2 月 24 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
6	翁 長 大 輔 (日本共産党) 質問方式 一問一答方式 (質問席のみ)	1 労働行政について 2 小中学校部 活の県外派遣 費用の増額に ついて 3 那覇市の防 災強化に向け ての取り組み について	(1) 本市職員、市内小中学校の教員の超過勤務 状況を問う (2) 本市職員、市内小中学校の教員のこころの 病の状況を問う (1) 市内の小・中学校における、2013 年度県 外大会への派遣件数・派遣人数・派遣費用 を問う (2) 消費税増税などにより、宿泊費等が増えて いく中で、保護者や児童がかかえる負担軽 減と、教育環境充実の観点から児童生徒の 県外派遣旅費補助金を増額すべきである。 見解を問う (1) 市長の施政方針として、うまんちゅ救急ス テーションの強化拡充がある。制度の概要説 明と設置箇所数を問う (2) 那覇市自主防災組織の役割・組織数の変化 を問う (3) 那覇市消防団員数は、全国と比べ少ない。 このことによる影響はないか、また、増員に 向けての取り組みと、消防団の役割を問う (4) ペットボトルを活用した簡易救命具によ る人命救助の現状と、配置数を問う (5) 防災や救護に対する市民意識を高めるた めには、小中学生から救護や防災知識の向上 を図るべきである。学生向け教育の現状を問 う
			【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長

一般質問（１日目） 平成27年2月24日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
7	仲 松 寛 (新 風 会)	1 市長の政治 姿勢について	戦後 70 年の節目の年を迎える。市長は施政方針で「平和こそが沖縄発展の礎であり、その思いは、万人に共有されているものだと思います。私たちには、戦後、本市の発展を築いてこられた先達から受け取った平和のバトンを次の世代につなぐ、という責任があります」と述べたが、去る大戦、特に沖縄戦をどのように想起し、本市として次の世代につなぐ平和学習等、関連する事業への取り組みはどのようなになっているか伺う
		2 財政について	平成 27 年度の那覇市一般会計予算は 1,344 億 7 千万円で前年度に比較して 59 億 8 千 6 百万円、4.3%の減となっている。また、沖縄振興特別推進交付金は制度創設から今年で 4 年目を迎えた。ついては、次の事項について伺う (1) 歳入、歳出の概要、特に予算減になった要因について伺う (2) 特徴的な事業について伺う (3) 沖縄振興特別推進交付金の概要及び特徴的的事业について伺う
		3 中心市街地 活性化について	(1) マチグラー・中心商店街のにぎわいづくりに取り組むための基本計画を策定することになっているがその概要について伺う (2) 「頑張るマチグラー支援事業」の内容と効果について伺う (3) 第一牧志公設市場の再整備に関する取り組み状況について伺う
			【答弁を求める者】 市長、副市長、関係部長

一般質問（１日目） 平成 27 年 2 月 24 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
8	我如古 一郎 (日本共産党)	1 消防行政について	(1) 自然災害への対応や、高齢化による救急搬送も増大しており、消防の果たしている役割は、かつてなく重要性を増している。出動件数など実績を問う (2) 本市消防局の消防署所の整備計画の現状と課題を問う (3) 消防力強化の根幹は人員体制ではないか。新年度からの増員を始めるべきである。見解を問う (4) (仮称)樋川出張所の体制と機能について、計画を問う (5) (仮称) 識名出張所の建設計画を問う
		2 高齢者福祉について	(1) 那覇市の高齢者単身世帯数の現状と将来推計を問う (2) 「地域包括ケアシステム」のビジョンは、医療福祉の社会保障の見直しと同時に、少子高齢化社会、人口減少社会に向けた「まちづくり」の課題を提起している。本市の取り組みと課題を問う (3) 施政方針で、学校をもっとも身近な「地域コミュニティの拠点」として有効に活用すると、利用促進が表明されている 「高齢者見守り」の拠点ともなる、地域ふれあいデイサービスを地域学校連携施設を利用して実施して拡大することは重要である。真地小学校の施設はその対象になりえるか。見解を問う (4) 高齢者孤独死件数の推移と予防のための取り組みを問う (5) 民生委員の役割と充足状況、平均年齢を問う
			【答弁を求める者】 市長、副市長、教育長、関係部長